

## 平成 29 年度第 2 回立川市生涯学習推進審議会 会議録

開催日時 平成 29 年 9 月 4 日（月曜日） 午後 7 時 00 分～午後 9 時 00 分

開催場所 立川市女性総合センター（AIM）5 階第 2 学習室

出席者 [委 員] 朝岡 幸彦 会長 佐藤 良子 副会長

榎本 弘行 委員 倉持 伸江 委員

眞壁 繁樹 委員 梅田 茂之 委員

比留間 敏郎 委員 竹内 英子 委員

楢崎 茂彌 委員 萩本 悦久 委員

宮本 直樹 委員

[事務局] 五十嵐 誠 生涯学習推進センター長

諸井 陽子 管理係長

鳥野 純一 管理係員（記）

### 次第

1. 開会
2. 立川市生涯学習推進審議会会長 挨拶
3. 報告事項
  - (1)平成 29 年度第 1 回立川市生涯学習推進審議会 会議録について
  - (2)（一社）全国社会教育委員連合の寄附募集について
  - (3)行事等の報告及び今後の予定について
4. 協議事項
  - (1)諮問に対する答申について
  - (2)立川市第 5 次生涯学習推進計画平成 28 年度取組状況の進捗評価について
5. その他

### 配付資料

1. 平成 29 年度第 1 回立川市生涯学習推進審議会 会議録
2. （一社）全国社会教育委員連合 寄附募集関係資料（ご協力のお願ひ及び趣意書）
3. 行事等の報告及び今後の予定について
4. 立川市第 5 次生涯学習推進計画 平成 28 年度取組状況の進捗評価について
5. （事前送付資料）平成 29 年度小中連携教育推進計画及び立川市民科全体計画
6. （事前送付資料）立川市新校舎建設マスタープラン及び関連資料
7. （事前送付資料）立川市第 5 次生涯学習推進計画 平成 28 年度取組状況の進捗評価表（平成 29 年度実施）各委員からのご意見（まとめ）

### 会議内容

1. 開会
2. 生涯学習推進審議会会長挨拶

### 3. 報告事項

(1) 平成 29 年度第 1 回立川市生涯学習推進審議会 会議録について

(事務局・管理係長) 各委員に事前にご確認いただき、修正希望はありませんでした。

(会 長) 会議中に気付いた点などあればお申し出ください。なければ承認といたします。

(会議終了までに意見等なし)

(2) (一社) 全国社会教育委員連合の寄附募集について

(事務局・管理係長) 7 月 25 日 (火曜日) に開催された東京都市町村社会教育委員連絡協議会 (以下「都市社連協」という。) 第 2 回役員会・第 2 回拡大役員会で、平成 29 年度の都市社連協としての対応が議論された結果、28 年度と同様に、寄附するかどうかの判断は社会教育委員個人に委ねるという結論でした。このことは同日開催の第 1 回理事会でも諮られ、承認されました。

(会 長) 28 年度にもこの問題を議論し、結論としては個人に委ねることにしましたが、我々が積極的に寄附をする理由が見当たりませんでした。会長市となった今年度は、都市社連協の全理事の同意を前提に「都市社連協としてこの件は関知しない」という対応を提案しましたが、個人で対応するのがよいという結論に落ち着きました。よろしくご判断ください。

(3) 行事等の報告及び今後の予定について

(事務局・管理係長) 資料 3 をご覧ください。

「関東甲信越静社会教育研究大会 (静岡大会)」について、参加希望者は本日中に事務局までお申し出ください。必要経費は自己負担となります。

(副会長) 関東甲信越静社会教育研究大会 (静岡大会) に参加します。

(事務局) 承りました。

(事務局・管理係長) 「都市社連協交流大会・社会教育委員研修会」については、立川市が幹事市です。ご参加いただければ幸いです。詳細は次回ご説明いたします。

(会 長) 可能なら、スケジュールを空けておいてください。

(事務局・管理係長) 「第 37 回立川市中学生の主張大会」の審査員は、個人審査員 (1 名 枠) に委員 A と委員 B、団体審査員 (2 名 枠) に委員 C が立候補しています。

(委員 B) 「第 37 回立川市中学生の主張大会」の個人審査員に立候補しましたが、団体審査員でも結構です。

(会 長) では、個人審査員は委員 A、団体審査員は委員 B と委員 C にお願いします。(異議なし)

(事務局・管理係長) 3 月 5 日 (月曜日) に開催予定の「第 5 回立川市生涯学習推進審議会」について、他の会議日程との都合により再調整をお願いします。

(会 長) (調整の結果) 3 月 8 日 (木曜日) がよさそうです。この日でよろしいですか。(異議なし)

(事務局・管理係員) 会議後、事務局より確認のご連絡をいたします。

(会 長) 「都市社連協ブロック研修会」について、立川市は第二ブロックです。スケジ

ルールを調整していただければと思います。他のブロックの研修会にも参加できますので、事務局に連絡してください。

(事務局・管理係員) 第二ブロック研修会は、幹事市の昭島市から通知があり次第、詳細を周知いたします。

#### 4. 協議事項

##### (1) 諮問に対する答申について

(会 長) 『学社一体』へ向けた取り組みにおける地域学習館のあり方について」という諮問が市長から出されています。今日を入れてあと4回の会議で議論していきます。「学社一体」とは立川市のオリジナルな言い方ですが、学校教育と社会教育、とりわけ地域学習館がどれだけ連携できるかが鍵になります。第一小学校(以下「一小」という。)と柴崎学習館は複合施設になっています。柴崎学習館の方は概ね把握ができますが、学校がどのような状況なのかは視察してみないと何とも言えない部分があります。そこで一小に視察に行きたいと思います。事前調整の結果、候補日は10月12日(木曜日)午前中と13日(金曜日)午前中とのことです。よろしいですか。(異議なし)

(事務局・管理係長) 現地集合で、10時頃から1時間半程度になろうかと思います。学校の案内は柴崎学習館係長が行うことを予定しています。また、一小側から、質問事項の事前提供を求められています。

(会 長) どちらの候補日も5名程度の参加が可能のようです。両日とも視察するのは可能ですか。

(事務局・管理係長) 一小に確認します。

(委員D) 事前に質問を出すのは難しいと思います。(柴崎学習館や一小を)知らない人にとっては、状況が分からないと思います。

(事務局・管理係長) 当日対応していただく副校長が新任のため、当日質問に十分な回答ができるか分からないとのことでした。当日は現地を柴崎学習館係長が案内した後、会議室等で副校長と懇談するよう調整中です。

(会 長) 視察をすれば疑問は湧いてくるでしょうし、一小に行ったことがない人には事前質問は難しいでしょう。(あらかじめ質問を用意して)一問一答でやってもあまり意味がないので、副校長には(当日の質問にも)答えられる範囲で対応してもらおうようにしてください。事前に用意していただく資料については、当日、副校長に現場で説明していただくとういでしょう。各委員は希望する資料を事務局に伝えてください。私は事務局と調整し、どんな資料を用意してもらうか決めます。

(事務局・管理係長) 一小には「複合施設についての視察」をお願いしています。「学校だけの視察」では、見るところが変わってくると思います。

(会 長) 学習館のことは分かっています。問題は、学校と学習館が一緒になっていることで、学校側にどのようなメリットとデメリットがあるか、ということです。そのため、「学校の視察」をしないと何も判断できないと思うのです。もちろん複合化はポイントですが、ただの一小施設見学ではなくて、(学習館の存在が)

学校教育にどのような影響があるのか（の視点で視察を行う必要がある）。「学社一体」を進めようとしているので、課題があれば解決しないといけません。そういう意味で、一小には「学校の視察」と思ってもらいたい。「学校の視察」となれば、大抵は教育目標や教育方針、年間の教育計画や経営計画等の視察用資料が用意され、説明していただけたと思います。新任の副校長でも、これらは知っているはずですが、こうした説明を受けた上で、複合化によってどのような課題や可能性があるのかを聞きます、と伝えておけばよいでしょう。

（委員E）今回は学校サイドに話を伺うということですが、実は、私は自分が関わっていない学習館については知らない部分も多いです。

（会 長）学習館側の聞き取りもしないといけませんね。

（委員E）せっかくの機会なので、一小職員だけでなく、柴崎学習館運営協議会委員や学習館職員にも、学習館サイドから見たときの課題を、その場で一度に質問できたら効率が良いのではないのでしょうか。

（事務局・管理係長）当日は柴崎学習館係長が同席する予定です。

（副会長）上砂会館では、様々な事業を通じて、学校との繋がりを持つようになっています。柴崎学習館と一小は渡り廊下で繋がっています。地域住民と触れ合うことができると思うので、いいなと思っていますが、学校がそこにどう関わっているかを聞きたいです。

（委員D）補足します。柴崎学習館は、一小と道路を隔てた別の敷地に建っていて、2階部分を渡り廊下で繋げています。学習館の2階に学校の体育館があります。複合施設といっても、一つの建物にまとまっているのとは違います。そのため、（施設内で）地域住民との交流があるとすれば、児童が体育館を使用するときには接触する程度でしょうか。しかし、学校側は「（知らない）大人と接触しないように」と指導していますから、直接の接触はあまりありません。講座等の企画を通して交流を図れば別ですが、複合施設だからといって常に交流があるわけではありません。

（副会長）上砂会館と同じ建物には児童館、学童保育所、地域福祉サービスセンター、図書館があります。年1回の上砂会館まつりは合同で実施しています。

（委員F）個人的な見解では、子どもたちは学供施設にはよく行くが学習館にはあまり行かないと思っています。ところで、諮問では「地域学習館のあり方」を問われていますが、上砂会館等の学習等供用施設（以下「学供施設」という。）も一緒に考えていくのでしょうか。

（会 長）学供施設についてもいずれ議論したいですが、当面は諮問事項に従って、地域学習館のあり方について考えたいと思います。学供施設についても答申で言及する可能性はあります。

ここまでのご意見をまとめると、地域学習館の実態はある程度把握できる（または、別に機会がある）ものの、学校については把握していない部分があるので、どのような連携の可能性があるのかどうか、無いとなると困りますが、視察を通して率直にお聞きしたい。そのためには学校経営の問題についてお聞きする必要がありますので、今回は「一小の視察」を行い、説明していただきま

す。ただしあくまでも学社一体を想定しています。現状は複合施設といっても施設が繋がっている以上のものではないということなので、これからどのように連携を進めていけるかを中心に、校長、副校長及び柴崎学習館係長がおられる場で、突っ込んだ質疑をさせてもらいたいと思います。後日一小に出す依頼文の中に、事前の質問事項を入れます。

視察の候補日は2日ありますが、多少内容を変えて両日実施してもよいかもしれません。事務局と協議します。

- (会 長) さて、諮問に対する答申をどのように組み立てていくかですが、立川市には学校教育と社会教育をより一体的に進めていこう、というビジョンがあります。そのときに、地域学習館において、事業の組み方等のソフト面から、ゆくゆくはハード面も含めて、「学社一体」が可能かどうか議論する必要があります。答申するにあたって、答申の柱にあたる論点についてご発言いただければと思います。
- (委員G) 議論のきっかけとして、まず「学社融合もしくは学社一体で、期待される効果は何か」ということがまだはっきりと見えていないと思います。
- (会 長) 「期待される効果」は何かをここで考える必要がありますね。他にありますか。
- (委員F) 地域学習館が持っている教育資源を今の学校教育の中でどう生かすことができるか、という視点で考えていきたいと思います。今の教師は部活動等の通常業務外の活動によって疲弊していると聞きます。そうした活動の一部を地域が担うことで、学校の負担を軽減することができる可能性があると思います。今のシステムのまま（で学社一体の取り組みを進める）だと、かえって学校側の負担が増えてしまうという問題があると思います。
- (会 長) 「地域学習館が持つ教育資源を学校教育にどう生かすか」というご発言でした。他にありますか。
- (委員G) 委員Fがおっしゃった「学校の負担」も大事な論点だと思います。学校の負担を増やさない形で（学社一体が）できないかどうか、検討する必要があると思います。
- (会 長) 学校は多忙化していますので、学社一体をすることによって教師の負担軽減が模索できないか、というのも一つの論点ですね。
- (委員D) 学社一体というと社会教育側が学校教育側に一方的に手を差し伸べることが中心だと感じますが、その逆の発想があってもよいと思います。
- (会 長) 「学校が持つ教育資源を地域学習館にどう生かすか」という論点があってもよいということですね。
- (副会長) 学校と地域が連携するためというのもあって「立川市民科」が始まったと私は理解しています。子どもたちの未来が開かれて、最終的には学習館での教育に繋がるというのが理想だと考えています。
- (会 長) 立川市の学校と地域の連携の取り組みの一つが立川市民科という枠組みであり、学社一体によってこれを更に発展させていくにはどのような可能性があるか、という趣旨のご発言だったと思います。
- 立川市民科と学校支援ボランティアを具体例として答申に盛り込むとよいかも

しれません。他にありますか。

(委員 B) 学校支援ボランティアに登録し、小学校で子どもたちに教えています。学校から特定の児童を見てほしいという依頼です。学社一体のとっかかりが出てくるのかなと思いながら実践していますが、「地域学習館のあり方」という視点となるとどうなのでしょう。学校支援ボランティアと地域学習館を結びつける部分がありません。

(会 長) 学校支援ボランティアの具体的なあり方としてどういう可能性があるのかという話はしないといけないと思います。「地域学習館が持つ教育資源を学校教育にどう生かすか」という意味では、学習館に様々な人材がいるということを前提にして、学校側をどう支援できるかという議論の中で、学校支援ボランティアに触れるように思います。他にありますか。

(委員 E) 学校ではできないことを学習館等で地域人材がサポートするようになると、子どもたちにとって良い体験になるのではないかと思います。ただ、具体的に学習館に保護者の立場から何を求めるかと考えると難しい。学習館が何をするとどこか分かっている人ならまだしも、そうでない人にとっては、まず生涯学習そのものが認知されないといけないと思います。もしくは子どもたちにとって身近な施設にならないといけないのかもしれない。

(会 長) 一体化とはそれぞれを棲み分けしない（で一つにまとめる）ということではありません。「学校でできないことを地域学習館でやる」という可能性があって、それは重要な論点になると思います。公民館が学校に居場所がない子どもたちの居場所を作り、地域で支えながらやっていく、というケースは実際にあります。学校とは異なる場所としての地域学習館が、子どもの教育や子育てに貢献できるものがあるのではないかと、という柱の立て方はあると思います。このような受け止め方でよろしいですか。

(委員 E) 少し補足をすると、特別支援学級に通う児童が増えているようで、そこに学習館がサポートに回れば、学校の負担軽減にも繋がると思います。

(会 長) 「サード・プレイス」という考え方があります。家庭（自宅）、職場や学校以外にたまり場のような第3の居場所が必要だというものです。このたまり場機能を社会教育施設が持つという可能性は十分あり、いい意味での棲み分けはあり得ると思います。親も子どもも価値観が多様化していて、すべてを学校の枠組みの中で収めることが難しくなっています。それを民間だけに任せるのではなく、社会教育部門をうまく使って、地域で育てていくという発想がよいのかもしれない。必要に応じて議論していきましょう。

(委員 B) 事務局にお願いします。学校支援コーディネーターについての立川の現状を教えてください。

(事務局・センター長) 28年度から始まっています。「立川の教育」の102ページをご参照ください。28年度は5校で、29年度は13校になっています。30年度には全校に広げたいと考えています。学校と地域を結ぶコーディネーターを校長から推薦してもらい、コーディネーターが学校の要望と地域人材を繋げるという制度です。

- (委員 B) 学校主導ですか。中学校区で配置を考えているのですか。
- (事務局・センター長) 教育委員会主導です。なるべく中学校区に 1 人ずつ配置されるように考えていますが、地域によって偏りがあります。
- (会 長) 事務局は、学校支援コーディネーターの選び方や、コーディネーターへの依頼の内容についての実態をまとめた資料を、後日ご提供ください。
- (委員 H) 学校支援コーディネーターは、校長や副校長から相談が入ると思いますが、コーディネーターから学校側に提案することはあるのですか。
- (副会長) 私はコーディネーターを務めています。学校に提案することがあります。学校からの依頼もすべて実現しています。
- (事務局・センター長) コーディネーター研修の講師は、実際にコーディネーターを長年務めた人です。コーディネーター自身が把握している人材だけでなく、「知り合いの知り合い」のようにネットワーク化した人脈を活用することもあるようです。
- (会 長) 副会長からコーディネーターの役割についてお話をいただくことも今後検討します。立川市民科、学校支援ボランティア、学校支援コーディネーターに、地域学習館としてどのように関わることができるのか、また関わる必要があるのかということについて、大事な論点として挙げたいと思います。事務局は関連する資料をご用意ください。
- (委員 I) 学習館と学校との連携の実態についても伺いたいです。
- (事務局・センター長) 承知しました。
- (会 長) 今までに出された論点は最終的にまとめますが、少なくとも 7 点の柱が挙げられたと思います。
- 1 点目は「学社一体を進めることで期待される効果、メリット及びデメリット」
  - 2 点目は「地域学習館が持つ教育資源を学校教育にどう生かすか」
  - 3 点目は「学校の負担をどう軽減するか」
  - 4 点目は「学校が持つ教育資源を地域学習館にどう生かすか」
  - 5 点目は「立川市民科や学校支援ボランティア、学校支援コーディネーターに、地域学習館がどのように関わるべきか」
  - 6 点目は「学校ではできないことで、地域学習館ができること」
  - 7 点目は「立川市の地域づくりのビジョン」について。コンパクトシティという考え方があります。(自治体の一般的な傾向として) 老朽化していく施設を現状のまま維持するのが難しくなっており、学校区を地域の拠点として各施設をハード・ソフトの両面で統合するのが合理的だという考え方です。立川市の今後を考えると、この点についても議論できればと思います。事務局は、学校や社会教育施設の建て替え、改修計画を調べてください。
- 次回、7 つの柱について議論したいと思います。論点をまとめた資料を早めに送付しますので、各委員はあらかじめ考えをまとめておいてください。また、答申の枠組みのイメージを提示したいと思います。

(2) 立川市第 5 次生涯学習推進計画 平成 28 年度取組状況の進捗評価について

(会 長) 事前提出した各委員の意見が資料として配付されています。当初予定では、コメント案を私が作成して、それをたたき台に議論する予定でしたが、今回は補足意見等を伺うこととし、コメント案をもとにした議論は次回に回したいと思います。ご意見はありますか。

(会 長) 特にないようです。コメント案は、現在挙がっている意見をもとに作成します。

## 5. その他

各種イベント等の告知